

「学科間プロジェクト」のカリキュラム開発に関する実践的研究

「有馬温泉ゆけむり大学」を事例として

PRACTICAL STUDIES ON CURRICULUM DEVELOPMENT OF
"INTERDEPARTMENTAL PROJECT"
Case Studies of "Arima Onsen Yukemuri University"

相澤 孝司	デザイン学部プロダクトデザイン学科 教授
かわい ひろゆき	デザイン学部ビジュアルデザイン学科 教授
野口 正孝	デザイン学部ファッションデザイン学科 教授
安森 弘昌	デザイン学部プロダクトデザイン学科 准教授
橋本 英治	先端芸術学部まんが表現学科 教授
川北 健雄	デザイン学部建築・環境デザイン学科 教授
馬場田 研吾	元・デザイン学部プロダクトデザイン学科 実習助手
上村 孝人	先端芸術学部映像表現学科 実習助手
白本 恵美	元・デザイン学部ファッションデザイン学科 実習助手
綱島 夢美	元・先端芸術学部まんが表現学科 実習助手

Takashi AIZAWA	Department of Product Design, School of Design, Professor
Hiroyuki KAWAI	Department of Visual Design, School of Design, Professor
Masataka NOGUCHI	Department of Fashion and Textile Design, School of Design, Professor
Hiromasa YASUMORI	Department of Product Design, School of Design, Associate Professor
Eiji HASHIMOTO	Department of Manga Media, School of Progressive Arts, Professor
Takeo KAWAKITA	Department of Environmental Design, School of Design, Professor
Kengo BABATA	Department of Product Design, School of Design, Former Assistant
Takato KAMIMURA	Department of Image Arts, School of Progressive Arts, Assistant
Emi HAKUMOTO	Department of Fashion and Textile Design, School of Design, Former Assistant
Yumi TSUNASHIMA	Department of Manga Media, School of Progressive Arts, Former Assistant

要旨

本研究では、「有馬温泉ゆけむり大学」を実践的なデザイン教育の場として研究を行った。すなわち、「学科間プロジェクト」の教育的効果を再考するために、本イベントの「Tシャツ」、「チラシ」デザイン、及び有志学生による「神戸芸工大雑貨屋さん」、「浴衣DEファッションショー」を開催した。その他イベントとして、「有馬温泉クリスマスツリープロジェクト」のワークショップ、「有馬節分会」の「チラシ」デザインを行った。

また、武蔵野美術大学・群馬県立女子大学・立命館アジア太平洋大学に出向き、聞き取り調査を行った。

研究の結果、「有馬温泉ゆけむり大学」に参加した学生は、他の学科及び学年を超えた交流の機会ができた。また、特に大阪音楽大学・近畿大学・武庫川女子大学の学生たち及び有馬温泉のスタッフとも交流ができたことは、大変貴重な経験となり、様々な教育効果が期待できる。したがって、「学科間プロジェクト」のカリキュラム開発のための基礎資料を得ることができた。

Summary

In this studies, we studied that the "Arima Onsen Yukemuri University" was for design practical education. That is, in order to rethink the educational effect of "Interdepartmental Project", of this event "T-shirt", "Flyer" design, and by volunteer students "Kobe Design University Zakkaya san", "Yukata DE Fashion show" were held. As other events, workshop of "Arima Onsen Christmas tree project", "Flyer" design for "Arima Setsubun E".

In addition, visited to Musashino Art University, Gunma Prefectural Women's University, Ritsumeikan Asia Pacific University, which were investigated.

Results of the studies, students who participated in the "Arima Onsen Yukemuri University" was able opportunity of exchange beyond the school year and other departments. In addition, it becomes a very valuable experience, that the staff of Arima Onsen and students of Osaka College of Music, Kinki University, Mukogawa Women's University also could exchange in particular can be expected to be teaching a variety of effects. Therefore, it was possible to obtain the basic data for curriculum development "Interdepartmental Project".

1-はじめに

本研究では、本学の所在地である神戸市北区有馬温泉において、2010年から継続的に開催されているイベント「有馬温泉ゆけむり大学」^{注1}を実践的なデザイン教育の場として研究を行った。すなわち、「学科間プロジェクト」の教育的効果を再考するために「総合プロジェクトE」の実践として、「Tシャツ」及び「チラシ」のデザインを行った。有志学生の実践として、「神戸芸工大雑貨屋さん」及び「浴衣 DE ファッションショー」を開催した。その他の実践として、「有馬温泉クリスマスツリープロジェクト」のワークショップ、「有馬節分会」の「チラシ」のデザインを行った。また、武蔵野美術大学、群馬県立女子大学、立命館アジア太平洋大学に出向き、聞き取り調査を行った。

研究の結果、「有馬温泉ゆけむり大学」に参加した学生は、他の学科及び学年を超えた交流の機会ができた。また、特に大阪音楽大学・近畿大学・武庫川女子大学の学生たち及び有馬温泉のスタッフとも交流ができたことは、大変貴重な経験となったと思われる。したがって、様々な側面での教育効果が期待できると考えられ、新たな「学科間プロジェクト」のカリキュラム開発のための基礎資料を得ることができた。

2-研究の方法

2-1「総合プロジェクトE」による実践

今年度は、新たに事前履修登録する学科横断プロジェクトとして「総合プロジェクトE」が開講された。すなわち、今年度開催される「有馬温泉ゆけむり大学」学園祭を「総合プロジェクトE」の実習授業として告知した。履修学生（以降学生とする）は、ビジュアルデザイン学科8名（1年生1名、2年生7名）、プロダクトデザイン学科9名（1年生4名、2年生5名）、まんが表現学科2名（2年生2名）、クラフト・美術学科4名（1年生1名、2年生3名）、ファッションデザイン学科2名（1年生2名）の5学科となり、総学生数は25名の構成である。

大学の制服として「Tシャツのデザイン」、学園祭のイベントを告知する「チラシのデザイン」を各学生に対して必須の課題とした。また、学園祭期間に1日以上有馬温泉

で本学有志学生及び他大学と交流すること、及びレポートの提出を求めた。

本プロジェクトは、以下のスケジュールで進められ、項目ごとに内容を整理した。

「本学オリエンテーション」5月28日(火)12:15~12:45、学生に対してオリエンテーションを行いプロジェクトの趣旨と2010年~2012年に実施された「有馬温泉ゆけむり大学」の内容を説明した。

「有馬温泉において現地調査」6月1日(土)9:45~17:00、有馬温泉にて4大学合同のオリエンテーションが行われ、その後現地ガイドによる有馬温泉のフィールド調査を実施した。(図1)



図1 現地ガイドによる有馬温泉のフィールド調査

「学内打ち合わせ(1)」6月14日(金)18:00~19:00、学生に対して「Tシャツ」、「チラシ」の表紙のデザインを必須の提出物とし、今後のスケジュールを確認した。

「学内打ち合わせ(2)」6月28日(金)18:00~19:30、学生による第1回目の「Tシャツ」、「チラシ」プレゼンテーションを行った。

「学内打ち合わせ(3)」7月5日(金)18:00~19:00、ブラッシュアップされた作品を本学会場に展示して学生の投票により「Tシャツ」、「チラシ」のデザイン案を絞り込んだ。その結果「Tシャツ」7案、「チラシ」6案となった。(図2)



図2「Tシャツ」、「チラシ」の学内プレゼンテーション

「有馬温泉において選抜作品のプレゼンテーション」 7

月7日（日）13:00～17:00、選ばれた作品は、本学学生により「Tシャツ」、「チラシ」のデザインコンセプトの説明などプレゼンテーションを行った。終了後、4大学の参加学生と有馬温泉のスタッフ合同の投票により最終案を決定した。（図3）



図3 最終案の「Tシャツ」、「チラシ」のデザイン

「学園祭」8月29日（木）～9月1日（日）、「総合プロジェクトE」の学生は、学園祭期間中に本学有志学生による「神戸芸工大雑貨屋さん」及び「浴衣DEファッションショー」のバックアップメンバーとしても参加しており、また他大学の企画（炭酸ガーデン、有馬灯）に合流した。「最終報告会」10月10日（木）18:00～18:30、最終の課題として、本プロジェクトに参加した感想などのレポートを提出させた。

2-2 有志学生による実践

有志学生による実践として、「神戸芸工大雑貨屋さん」は、8月31日（土）10時～17時及び9月1日（日）10時～13時の二日間に有馬温泉金の湯前にて参加学生の作品（有馬のお土産に関連した作品）の展示販売を目的とする模擬店を出店した。8月31日（土）の参加学生は、クラフト・美術学科3年生4名、4年生2名、ファッションデザイン学科3年生9名、9月1日（日）の参加学生は、クラフト・美術学科の学生のみとなった。なお、事前のプレリサーチとして、有馬夏祭り8月4日（日）、8月4日（月）19時～22時に太閤通りにて展示販売を行い、本番学園祭に向けての準備態勢を整えた。

「浴衣DEファッションショー」は、8月31日（土）

18時30分～19時の時間に温泉寺本堂内で実施された。ファッションデザイン学科3年生9名は、兵庫県の地場産業「播州織」を用いた浴衣のファッションショーを開催し、近畿大学、武庫川女子大学、こゆな12坊（有馬温泉のPRレディー）及び本学学生がモデルとなり、本堂の幽玄な雰囲気の中にも若い感性が輝いていた。なお、告知用のチラシのデザインは、まんが表現学科3年生が担当した。

（図4）



図4 浴衣DEファッションショー（温泉寺）、チラシ

2-3 その他イベントでの実践

本研究では、「有馬温泉ゆけむり大学」学園祭以外の2例の実践を行った。「有馬温泉クリスマスツリープロジェクト」は、有馬温泉金の湯前において、2013年11月30日（土）～12月26日（木）に開催されたクリスマスのイベントである。今回は、クリスマスツリー内部に展示するPETボトルを再利用したクリスマスオーナメントの制作を地元小学生たちとプロダクトデザイン学科2年生3名、

クラフト・美術学科1年生合同でワークショップを実施した。また、クリスマスツリーの組み立て、オーナメントの展示も有馬温泉のスタッフと行い、夜間点灯時の感動を共有していた。

「有馬節分会」は、2014年2月2日(日)に行った仮装イベントであり、告知用のチラシのデザインをまんがが表現学科3年生2名が担当した。(図5)



図5「有馬節分会」チラシのデザイン

3-調査

本研究では、温泉観光地との連携実績がある大学の聞き取り調査を行なった。武蔵野美術大学では、新潟県岩室温泉との連携を2001年から行っており、この実績が2006年~2008年の文部科学省現代GPに採択されるなど、多数の実績を残している。本研究の先行研究として大変興味ある調査ができた。群馬県立女子大学では、高橋研究室を中心に、地元伊香保温泉との連携を2012年から行い、「伊香保てぬぐいアート展」は定例化したイベントになっている。また、本学と有馬温泉との連携実績を紹介する研究会も実施した。立命館アジア太平洋大学では、別府温泉との連携を「ハットウ・オンパク」などのイベントにおいて、学生が地域ボランティア活動として実践している。聞き取り調査の結果、それぞれの大学が温泉観光地と試行錯誤しながら連携を進めており、また、各大学の学生は、貴重な学び・体験・交流などの教育効果があることが分かった。

4-おわりに

「有馬温泉ゆけむり大学」学園祭に参加した学生は、他の学科及び学年を超えた交流の機会ができた。また、特に

他の3大学(大阪音楽大学・近畿大学・武庫川女子大学)の学生たち及び有馬温泉のスタッフとも交流ができたことは、大変貴重な経験となったと思われる。開学時の「学科間プロジェクト」は、4年次における学科を超えた水平指向的なプロジェクトの教育であった。しかし、本研究では、学科×学年×他大学×有馬温泉と多面的な側面での教育効果があったと考えられる。

調査を行った3大学の結果からも、温泉観光地と大学の連携は、各温泉地域の活性化に寄与し、それぞれの大学において教育効果があることが分かった。

本学の特色ある実習授業として、新たな「学科間プロジェクト」のカリキュラムを開発するために、「有馬温泉ゆけむり大学」がデザイン教育の実践的研究の場として、大変有効であると考えられる。「温泉」は日本の文化である。温泉地域の活性化と大学との連携方法のありかたを構築し、展開するために、今後も継続的に研究を進めていく所存である。

注1 有馬温泉ゆけむり大学とは、(一社)有馬温泉観光協会と大阪音楽大学×近畿大学×神戸芸術工科大学×武庫川女子大学の4大学が「つながり」をテーマに、若者の力で有馬温泉を活性化させようと2010年にはじめた企画である。

参考文献

- NPO法人 BEPPU PROJECT、『混浴温泉世界 場所とアートの魔術性』、河出書房新社、2010年
 『「いわむろのみらい」創生プロジェクト』、武蔵野美術大学、文部科学省現代的教育ニーズ取組支援プログラム(現代GP)報告書、平成18年度-平成20年度、2009年